

ねっどわーく



■真田先生・渡辺先生 授業研ありがとうございました

22. 6. 24 No.12

6月の計画訪問を控えてのお忙しい中、お二人の先生から授業を提供していただき、ありがとうございました。すでに事後研で話し合われていますので、私自身が個人的に学んだ点を述べたいと思います。

<真田先生の授業から学んだ点>

- ・昨年度も思ったのですが、学習に入る前の「よし、これから勉強するぞ!」という雰囲気づくりがいいなあと。それは何かというと、簡単なドリル学習といってもよいでしょうか。今回は、9と10の数の構成について、教室側面に問題を用意しておき、「10は、1と…」ということをもみんなで答えていました。短い時間でもこうした学習は大切だなと感じています。
- ・場面の様子を、みんなで声を出し、何回も確かめていました。たぶん4～5回は読んだのではないのでしょうか。また、問題文にはもともとあった数には赤線、あとから増えた数には青線が引かれていました。また、さらには絵もつけて。こんな風にていねいに問題文をくたくとすることで、文章読解の苦手な子も授業の参加できるなあと思いました。

<渡辺先生の授業から学んだ点>

- ・分度器の初めての学習ということで、とてもていねいに指導してくださっていました。度の書き方、そして測り方。子どもたちに説明したり、書かせたりしたあとに渡辺先生は、必ず机間指導を行っていました。教師が予定していたこととズレが生じるとあせってしまうということがよくあるのですが、渡辺先生は、子どもたちの実態をていねいに看取り、授業を修正していたなあと思いました。
- ・自己評価の観点をととてもわかりやすく提示していたこと。何ができたらAなのかははっきりしていたので、自分の現在の状況をつかみやすかったのではないかと思います。今後ぜひ真似したいと思いました。



- ・上の写真にあるように、ペア学習がとても自然にできていました。これは算数だけではなく、日ごろから友達との「関わり方」などを指導してくださっているからだと感じました。学級経営が基本といわれる所、見せていただきました。

<今後に向けて>

事後研でも話し合われましたが、やはり何を教えるか、何を考えさせるかが、本研究の肝だと思います。ちょっと乱暴なのですが授業全体のイメージとして、考えさせる段階のパーセンテージを高めるために、本当に「最低限」教えることにしぼりこみ、考えさせる段階で、子どもたちがかわって解決できるような感じだといいいのかなあと。でもこの最低限が難しいんですよね。実践していて、つくづく思います。あれもこれも詰め込みたくなるんですよね。だから教える段階がふくらむんですよね。うーん、ほんと難しいです。

教える段階	考えさせる段階
教える段階	考えさせる段階

6/30（水）計画訪問時の分科会の詳細について

分科会① 14:05～14:45

1. 開会（司会）
2. 話し合い（自評・質疑・指導）
3. 閉会（司会）

※指導主事の先生と1対1になる方は、ご自分で司会記録をお願いします。
複数の方は、どちらが、司会をお願いします。
記録したものは、提出の必要なし

◎算数の授業を行った田宮先生・渡辺先生・土田先生は、担当指導主事の先生と一緒に 次の
分科会②について、話し合いの柱を立てていただき、紙（掲示用として）に書いておいてください。

分科会② 14:50～15:50 【授業改善プロジェクト事業の一環】

1. 開会（司会）
2. 話し合い
 - （1）自評・質疑（5分）
 - （2）話し合いの柱をもとに協議（45分）
 - （3）ご指導（助言者の先生より：低：太田指導主事
中：大場指導係長
高：遠藤指導主事（10分）
3. 閉会（司会）

※各ブロックで役割の選出をお願いします。司会と記録です。
記録の方は、後日、低・中・高ブロックで、どのようなことが
話し合われたかを共有しますので、提出をお願いします。
記録用紙は研究部で準備します。

※司会の方は、助言者の指導主事の先生以外に2名の指導主事の先生も部会
に加わるので、適宜、話していただくよう、ご配慮ください。
（助言者の先生は、話す時間が別途とってありますが、その他の指導主事の
先生は時間がとってないので…）